

# 観音扉の作り方

## ～戸前の漆喰塗り編～

左官吉田  
吉田 一正

前回(本誌2025年9月号)では、実際に漆喰を練るところから施工の面切りまでを紹介した。今回は、漆喰塗り3日目から5日目にかけての戸前の仕事を紹介します(編集部)。

### 戸前の仕事

⑨角を起こして、小面をまとめ、面を引いて、壁を作る。戸前の仕事は、基本、これの繰り返しである。まっすぐ塗って、まっすぐ測る。左官職人として、初心の心得が試されている。

漆喰塗り3日目は、雌戸の実柱の見附と外側、及び、ピント面の施工である。

まずは、前日の仕事終わりに、面切りをしたところ(両突きなら実柱の追い込み面と見附の角、掛け違いであれば実柱の見附の塗り継ぎ部)へ塗っておいた角又の煮液を、硬く絞った手拭いで完全に拭き取る。保湿のための塗布ではあるが、この拭き取りが甘いと、かえって剥離の原因になり、悪い結果をもたらすこととなる。

戸前に漆喰をかけるからには、躯体の壁は仕上がっている訳だ。よって、戸前の躯体がらみの部分には、刳割りをした漆喰が残っている。これにも各所施工前日の仕事仕舞に角又の煮液を塗り、当日朝一番、拭き取っておこう。

角又の煮液の拭き取りが終わり次第、ピント面の下端と実柱の外側の切り付け、冠木の下端と、ピント面と実柱の見附の切り付けに刳割りをする。

ピント面の見附と下端の角、冠木の外側とピント面の下端の角へ定規漆喰で苧を巻く。追いかけて下端の二つの角へ、突き鋺をしながら定規漆喰を薄く、まっすぐ、手速に配り、漆喰定規を貼り付ける。定規の刃に沿って、ピント面の見附と外側に定規漆喰を刃欠けに塗り、これへ定規を貼り替える。定規際へ漆喰を配り、鋺の肩を入れた高さに壁中を埋めていく。



▲和釘 本鍛造頭無し釘  
阿弥陀釘に使用。指図から長さを割り出し、注文する。

ピント面の下端に塗った1番の漆喰の水引きを待つ間に、実柱の見附と外側の角へ定規漆喰で苧を巻く。実柱の外側の角へ定規漆喰をまっすぐ配り、漆喰定規を貼り付けて、見附の角を刃欠けにし、定規を返しておく。

ピント面の下端へ2番の漆喰を塗るのだが、定規際から3分くらい入ったところが大きく痩せるので、ここを定規の刃より鋺1枚分高く塗り付け、その高さで壁の中を埋めていく。

ピント面の下端の水引きを待つ間に、実柱の外側の1番の漆喰を塗る。塗り方に関しては、ピント面の下端の1番に準ずる。